

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	加古川市立平岡南中学校	研究グループ名 (いきいき表現プラン)
	教諭 尾崎 由香	

研究テーマ分類番号 (1)

(1)研究テーマ	
「書くこと」の言語活動として「感じて短歌」の短歌制作	
(2)研究経過及び具体的な取組	
5月15日	国語の学習についての意識調査 ・調査場所：加古川市内全中学校 ・調査方法：各学年2クラス抽出しアンケートを実施 ・調査成果：生徒の国語に対する意識を数値として見ることができた。
5月16日	国語学習についての検討会 ・検討方法：アンケートをグラフ化し数値にあらわれている問題点を探った。 ・検討結果：国語は好きな方だが、「作文や詩やメモなど文を書くことは好きですか」という問いには、男女ともに「あまり・嫌い」の比率が多いことがわかった。特に男子においては76%がそう答えていた。苦手意識を払拭するために、「書くことは特別ではないものだ」「書くことは楽しいことだ」という活動を短歌制作に盛り込むことを考えた。
5月～10月	短歌制作 ・実施場所：加古川市内全中学校 ・実施方法：2・3年生を対象に行い、1ヶ月に1首歌題（テーマ）にそった短歌を作った。 各学校5首程度選出し、各校から集められた短歌を、「兵庫県歌人クラブ」の選者に5首程批評していただいている。各校へプリントとして返し、生徒へ紹介した。 5月下旬 「人」を歌題に短歌制作 6月下旬 「雨」を歌題に短歌制作 7月下旬 「光」を歌題に短歌作成 8月下旬 「夏」を歌題に短歌制作 9月下旬 「スポーツ」を歌題に短歌制作 10月下旬 「秋」を歌題に短歌制作 ・実施成果：生徒達は回を重ねるごとに、作るのが楽しく感じているようである。各校のプリントを配布すると、「次回は載るようにながらばる」という生徒もでてきた。
11月 9日	兵庫県中学校教育研究大会での発表 ・実施場所及び人数：尼崎市立小園中学校 32人 ・成果と課題：6ヶ月間やってきたことを発表し、意見を交換した。「小さな書く」ことを繰り返すことで、生徒達にとって書くことが特別なことでなくなりつつあることを実感した。しかし、書けない生徒がいるのも事実であり、どのようにして支援していくかが課題である。